



Title	天貝義教先生を偲んで
Author(s)	近藤, 存志
Citation	デザイン理論. 2025, 85, p. 3
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/100268
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

天貝義教先生を偲んで

近藤存志

本年4月、本学会の役員として長く学会運営に貢献された天貝義教先生がご逝去されました。先生の生前のお働きと後輩研究者に示されたご厚意を偲びつつ、深い哀悼の意を表します。

先生は、本年3月に退職されるまで、秋田公立美術短期大学および秋田公立美術大学において30年近くにわたり、デザイン史・デザイン論の教育に重要なお働きをなさいました。研究においてはご高著『応用美術思想導入の歴史——ウィーン博参同より意匠条例制定まで』（思文閣）などを著される一方で、秋田公立美術大学では図書館長の重責を担われるなど、研究と教育の両面で活躍されました。

わたしにとりましては、天貝先生は、国際会議に参加した折には会場ですぐ最初にお姿を探す先生でした。天貝先生は、各国のデザイン史研究者が集うデザイン史デザイン学国際会議（ICDHS: International Conference on Design History and Design Studies）での研究発表を大切にされていました。イスタンブール、ブリュッセル、サンパウロ、台北など、隔年で世界各地で開催されるこの会議において、天貝先生は研究発表を重ねられてきました。この会議の合間に、食卓を囲んで穏やかで笑いの絶えない先生との交わりの機会が与えられたことは、わたしにとって天貝先生との貴重な思い出です。

天貝先生とわたしは同窓です。専攻コースは違いますが、わたしたちは筑波大学芸術専門学群に学びました。同時期に学んだわけではありませんが、先輩後輩と表現するにふさわしい関係でした。しかし天貝先生は常に非常に丁寧に、そして何よりも温かく接してくださいました。誰に対してもいつも気さくで紳士的に、そして大切に接してください、そういうお人柄でした。

2019年8月、彦根の滋賀県立大学で意匠学会の大会が開催されました。偶然同じホテルに宿泊していたわたしたちは、懇親会の開催された夜、ライトアップされた彦根城を遠くに望むラウンジで、ゆっくり二人で話をする時間が与えられました。今振り返りますと、あの晩が、コロナ感染症の影響もあってオンラインで諸会合が開催されるようになる前、先生と二人でゆっくりお話をさせていただいた最後の機会になりました。「お城を眺めながら静かに話せるスペースがありますから、今夜、後で少し話しましょう。」そんなお誘いをいただいて、とても嬉しかった記憶が鮮明に思い起こされます。

天貝義教先生とのお交わりに感謝するとともに、ご家族のみなさまのうえに、神様のなぐさめをお祈りいたします。